星美学園開校のきっかけ　　　２０１７．２．１２

1. 星美学園開校のきっかけになったエピソードをイタリアの宣教女シスター・アンジョリーナの回想からお話しましょう。

　それは1946年9月12日のことでした。

２．1945年8月15日の終戦の後、富士のすそ野にもアメリカ軍が駐留していました。

シスターたちと子どもたちが疎開していた山中湖村の近くでした。

３．何人かの兵隊さんたちが山中湖のシスターたちの家を訪れるようになり、70名ぐらいの子どもたちに食べ物を与えてくれるようになったので、子どもたちもシスターたちもやっと生きることが出来ました。

４．子どもたちは30分以上歩いて、村の小学校に通うようになり、ボロボロのちびた下駄をはいて通学していました。鼻緒が切れたり、壊れた下駄を手にぶら下げて帰ってくる子どもがほとんどでした。

５．ある日、レティツィア院長様がシスターアンジョリーナを呼んで、当時、県の行政監督をしていたアメリカ軍の責任者から子どもたちの下駄を買う手配をしてもらうよう、県所在地である甲府市に行くようにと命じました。

６．この時のことをシスターアンジョリーナは思い出して話しました。「3時間の旅の後、私は陸軍のプライバンティという名の偉い人の前にいました。彼は私たちの陳情を聞き終わると、ベルを鳴らして秘書を呼び、山中湖にシスターたちが小学校を開設する願書を作成するよう命じました。　私は驚いて、英語が下手だったので通じなかったのだと思い、『下駄がほしいだけなんです』と一生懸命説明しました。すると彼は、『なぜあなたがたは、子どもたちを公立の学校に通わせるのですか？あなた方は教育者であり、世界中に学校を持っているではありませんか。』と言いました。私はもう、なにも言えなくなり、下駄を買うためと学校開設のための2枚の紙を持って帰りました。

７．不安な予感通り、レティツィア院長様は、『あなたはよく説明しなかったのですね。若くて経験がないから、日本で学校を開設し続けていくことがどんなに大変なことか分からないのです。学校はまだ先のことです。』と言われ、断ってくるように再び遣わされました。

８．プライバンティさんはこう言いました。『院長様に「農夫は季節が来ると種を蒔くものだ」と言いなさい』

　　院長様はそれでも再度、学校開設を断り、私（シスターアンジョリーナ）を送ったのでした。

　　しかし、それは拒絶され、院長様もとうとうこの命令を受け入れました。

９．学校開設の認可が降りたのは、１９４６年の8月5日でした。

そして、9月12日　マリア様の御名の祝日にプラバンティさんはじめ、アメリカ軍関係者、日本の教育関係者が列席する中で、東京帝国大学(現在の東京大学)山中寮で開校式が盛大に挙行されました。

１０．こうして、東京の赤羽台に移転してから、小学校、中学校、高等学校、短期大学、幼稚園、養護施設が次々と創立されました。

　　日本のサレジアン・シスターズは世界94か国に仲間入りして、聖母マリア、聖ヨハネ・ボスコのご保護のもとに元気よく働いています。　神に感謝！　　　　　おわり